

## 平成30（2018）年度 追手門学院大手前中学校・高等学校 学校評価

### 1. めざす学校像

教育理念「独立自彊・社会有為」を体現する「人財」育成をすべての教育活動の根本とする。

また、すべての生徒が自己の成長と周りへの貢献を意識して、満足した学校生活を送り、希望の進路実現を果たせる学校づくりを進める。  
そのために、

- ①自ら学び、考え、他者と共に成長する生徒
- ②未来を切り拓くたくましさ・高い志・品格を備えた生徒を育成する。

### 2. 中期的目標

1. 学校の社会的評価を高めるために、理念に即した教育を展開し、それを積極的に発信する。
  - (1) 本校教育を世に問い、社会的評価を高めるために、組織として、個人として取り組むマインドを醸成する。
  - (2) 教育の成果の検証を行い、成果発表の場と捉え、積極的に外部に発信していく姿勢を持つ。
  - (3) 学校の教育の取り組みを内外に発信する。
2. 個人として、また組織として教育力を向上させ、生徒・保護者の満足度の向上につなげる。
  - (1) 学力伸長・進学実績の向上の課題を最優先課題とし、生徒の満足度向上を図る。
  - (2) 教員評価・学校評価の制度を改善し、目標を達成することで、学校力の向上・満足度の向上につなげる。
  - (3) OJTを通じた授業コーチングを行い、個人として、また組織的に授業力向上を図る。
3. 本校における新たな時代の学びのあり方を検討し、5つの教育を軸とした新しい教育を展開する。
  - (1) 各種委員会を定例で開催し、中・長期的な展望を持って教育の方向を決定する。
  - (2) 新たな時代の学びについて研究し、授業の改善を通じて生徒の学ぶ力を向上させるシステムを構築する。
  - (3) 総合学習を始めとした新しい教育の準備・実践のために組織的に取り組む。
4. 学院内での連携をさらに進め、教育力の向上につなげる。
  - (1) 大学教務課・入試課との連携会議を計画的に行い、追手門学院大学との教学面・進学面での連携を深める。
  - (2) 追手門学院小学校との教育方針・理念のつながりを意識し、本校の教育内容を整理して、教育面でのつながりを強化する。
  - (3) 茨木中・高との70周年事業に向けて定期的な交流・研修を実施し、相互の教育力の向上につなげる。

### 3. 自己評価アンケートの結果と分析・学校委員会からの意見

自己評価アンケートの結果と分析【2018(平成30)年11月実施】	学校関係者評価委員会からの意見
<p>○生徒 ・すべての項目で一定以上のポイントを獲得しており、中学ではほとんどの生徒が教育内容、生徒指導、施設設備、学校行事などに満足しており、殊に、「校則を遵守するための適切な指導が行われている」「現在の担任によるクラスの指導・運営は適切である」の項目に、高校では、「校則を遵守するための適切な指導が行われている」「現在の担任によるクラスの指導・運営は適切である」が高い評価を得ている。</p> <p>○保護者 ・すべての項目で一定以上のポイントを獲得しており、ほとんどの保護者が教育内容、施設設備、保護者対応などにほぼ満足をしていると考えられる。 ・殊に、「安心・安全な学校生活を送れている」、「事務室の対応は適切である」の項目は高い評価を得ている。</p> <p>【分析】 ・中学生徒の回答では、ほぼ全ての項目で高い評価を受けており、生徒の評価と保護者の評価に乖離が見られる。保護者への情報提供が足りていないものと考えられ、保護者への適切な情報発信に努めることが必要であると考え。今後、高校も同様に学校での取り組みがしっかりと保護者に伝わるよう努めることが喫緊の課題と考える。</p>	<p>○学校経営目標については、6年間の教育を通してしっかりと学力を伸ばしていただきたいと同時に、学力だけでなく、規律性、社会性も大切であり、この点についても指導をいただきたい。</p> <p>○中学、高校共に募集定員を満了したことは保護者としてもうれしいこと。</p> <p>○広報活動については、学校全体で取り組むことが大切と思うので、全員での取り組みを引き続きお願いしたい。</p> <p>○学校説明会などでは、学校の教育内容が、保護者、児童、生徒に十分に伝わるよう、分かり易くよく理解できるよう説明していただくことが大切だと思う。</p> <p>○進路指導について、子どもの将来のためのアドバイスを強化していただくとともに、高校1年生から進学に関する保護者説明会を増やしてほしい。</p> <p>○英検の見なし得点を活用する大学が増えていると聞くので、英検受験者数が倍増したことはとてもよいことと思う。</p> <p>○追手門学院小学校や追手門学院大学との連携は、大切なことと思う。</p> <p>○小学校との連携を強化することで、小学校からの入学者が増えるのではないだろうか。</p> <p>○学院創立130周年の式典は印象に残る良い式典であったと思う。</p> <p>○学院全体の取り組みとして、幼稚園の園児から大学生まで、総合学園としてみんなの演技は素晴らしかった、一体感があつたと思う。</p> <p>○安心安全な学校であると思います。引き続き、ご指導をよろしく願います。</p> <p>○よい教育をする意味でも先生方の健康管理は重要。</p>

4. 度の取組み内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 理念に即した教育の実践による社会的評価の向上	<p>◇全教職員が総力をあげて募集活動に取り組む。</p> <p>◇募集活動の積極的な取り組みを通じて、中学、高校共に募集定員を確保する。</p>	<p>(1) 全教職員が広報担当者としてのマインドを更に強力に共有できる取り組みを進める。</p> <p>(2) 公立中学校訪問のシステム整備と高校入試での認知度を上昇させる。</p> <p>(3) 受験生・保護者・教育関係者のニーズを研究し、求められるニーズの構築を図る。</p> <p>(4) 本校の教育活動の成果の発信に努めその浸透を図る。</p>	<p>(1) ・学校案内や広報内容のポイントを共有する。 ・全員で中学や塾訪問を行う。</p> <p>(2) ・全員で中学訪問を行う。</p> <p>(3) ・アンケートの実施。分析。 ・戦略の構築と実施</p> <p>(4) ・HPの内容の充実。 ・説明会等での本校の教育実践、新たな取り組みなど説明内容の充実を図る。</p>	<p>(1) ・入試広報部が頻繁に全教員に対し、広報活動のポイントなど、精力的に周知に取り組んだ。 ・教員が広報担当者としてのマインドをもって募集活動にあたった。 ・結果、中学、高校とも多くの受験者を得ることができ、募集定員を満たすことができた。</p> <p>(2) ・入試広報部から、中学校に対する広報のポイント及び入試の変更点、実施内容をしっかりと教員へ周知できた。 ・中学訪問は、2回の訪問が実施できた。 ・高校の入試説明会の充実を図り、参加数、受験数も昨年度に比べ著しく増加した。</p> <p>(3) ・アンケートの質問内容を検討し、一部変更・改善を図った。 ・アンケート結果の分析を説明会等に生かした。</p> <p>(4) ・プレテスト受験者や説明会参加者に対しての継続した広報活動を実施した。 ・HPからの発信回数、HPでの頻繁な情報提供など、昨年度と比較してより充実したものとなった。</p>
2 教育力向上の取り組み	<p>◇生徒の学力伸長と進学実績向上に集中した取り組みを推進する。</p> <p>◇国公立大学および医学部、また関関同立、産近甲龍において合格者数を昨年度以上の実績をあげる。</p>	<p>(1) 新たな学びを軸とした授業改革に組織的に取り組み、進学実績につなげる。</p> <p>(2) 中学および高校1年からの学習習慣の確立と学習のロードマップによる取り組み。</p> <p>(3) 保護者向けの進学説明会や学習会を定例化し、進学指導情報の共有化と学校方針の浸透を図る。</p>	<p>(1) ・各授業における新たな学びの授業実践の拡大</p> <p>(2) ・日々の提出物の提出状況 ・学校評価アンケート</p> <p>(3) ・懇談会などへの保護者の出席状況 ・学校評価アンケート</p>	<p>(1) ・学習推進・進路指導部が、資料提供、研修会実施を精力的に実施した。 ・新たな学びに対する意識の向上と教育実践への広がりが見られた。 ・医歯薬系への合格者数が大きく伸びた。 ・新たな学びの推進のため、ICTを活用した教育のPJチームを立ち上げ活動を推進できた。</p> <p>(2) ・学校評価アンケートについて、全ての項目で平均が一定の基準以上のポイントがあり、全体的に一定の評価をいただいている。</p> <p>(3) ・学年での説明会の回数や保護者ニーズに合った内容の改善が図れた。 ・保護者の出席者数の増となった。</p>
3 学力向上・人間形成の取り組み	<p>◇前年度の学校評価をもとにして、生徒・保護者の満足度向上の取り組みを推進する。</p> <p>◇学校評価アンケートの保護者推薦度について前年度以上を目指す。</p>	<p>(1) 学習推進・進路指導の取り組みを活発化し、HPや学年通信によって日常的に保護者に発信する。</p> <p>(2) PTA総会・学年会や保護者向け進学講演会などの情報発信の機会と参加者数の増に努める。</p> <p>(3) 2017年度の学校評価アンケートを改めて見直し、個々の教員が課題を洗い出して、課題の改善に努める。</p>	<p>(1) ・校務運営委員会で進捗を確認評価 ・学校評価アンケート</p> <p>(2) ・PTA総会や学年会、懇談会等への参加状況</p> <p>(3) ・学校評価アンケート</p>	<p>(1) ・学習推進・進路指導部が系統的な学習指導の在り方について指針を示し全校的な取り組みを推進した。</p> <p>(2) ・学年主任・分掌長会議での協議を踏まえ、各学年で課題を検討し改善が図れた。 ・懇談会等への保護者参加数が改善した。</p> <p>(3) ・全体的には一定の評価をいただいた。 ・前年度の結果を踏まえ、改善に務めた。</p>

4 一貫連携教育	◇追手門学院大学への進学者数について目標数値の達成を図る。  ◇追手門学院小学校からの入学者数について目標数値の達成を図る。  ◇学院内での連携のさらなる強化に取り組む。	(1) ・AP科目の単位取得をすすめる。 ・アサーティブ入試での大学との協議を促進する。	(1) ・大学担当者との協議の強化 ・内部進学者数の増加	(1) ・関係者同士の連携・協議を実施し内容の充実を図った。 ・内部進学し大学で活発に活動している学生による講話を実施。 ・ハワイ大学との提携を機に新たな連携も始まった。 ・グッズプラン、ビジネスプランの各コンテストに参加。追大留学生と本校生徒とのロボットプログラミング交流、心理学部学生によるホットルームにおける生徒支援
		(2) 追手門学院小学校の教員との交流の拡大を図る。	(2) ・交流の場の充実 ・授業参観の実施 ・クラブ交流などの実施	(2) ・管理職、関係教員が入試広報の充実、学校行事での効果的な交流について協議をすすめた。 ・道徳の授業参観に多くの教員が参加した。 ・本校教員が児童を対象にプログラミング教育の指導を行った。 ・剣道部、チアダンス部での交流指導を実施
		(3) ・追手門学院中・高との教科間の交流の強化を図る。 ・両中高の教育力の強化に向け、計画的で有効な人事異動を推進する。	(3) ・交流会の実施 ・人事異動	(3) ・新たな教育及び両中高の課題をテーマとした合同の研修会を実施した。 ・両校の授業力、生徒指導力を補填・強化する人事異動を行った。